

### 第3編 林道編

#### 第1章 林道工事

##### 第1節 道路土工

###### 1-1-1 切土工

1. 切土にあたっては、施工基面より深く切り過ぎないようにしなければならない。もし切り過ぎたときは、監督職員の**承諾**を得たうえで十分な地盤支持力のある土砂等で盛土するなど、適切に処理しなければならない。

また、路側工作物が設計されている箇所において、切り過ぎた場合には、その処理方法について監督職員の**承諾**を得なければならない。

2. 両切り箇所の川手地山は原則として残すものとする。ただし、監督職員の**承諾**を得た場合はこの限りではない。

###### 1-1-2 盛土工

1. 基礎地盤内にゆう水、滞水等のある場合は、監督職員と**協議**しなければならない。
2. 2割以上の急な勾配の基礎地盤上に盛土を行う場合には、現地盤が土砂にあっては幅1.0m、岩にあっては幅0.5mを目安とした段切りを行い、盛土と現地盤との密着を図らなければならない。
3. 盛土の敷均し・締固めにあたっては、適当な間隔でトンボ丁張を設置して、各層の仕上り厚さの管理を適切に行なわなければならない。

###### 1-1-3 残土処理工

1. 切土または床掘り等で生じた残土は、**設計図書**で指定された場所に、また指定されない場合でも監督職員の**承諾**を得て、災害防止及び環境保全等を考慮して安全に整理堆積しなければならない。
2. 残土処理場の基礎地盤及び法面は、盛土に準じるものとする。
3. 路肩に接する残土処理場の天端面について**設計図書**に示されていない場合には、5%程度の横断勾配を設け、原則として路肩と同高又は10センチメートル程度の段差を設けるものとする。

###### 1-1-4 素堀側溝工

素堀側溝は、所定の形状寸法で通りよく仕上げなければならない。

なお、やむを得ず過掘りした場合には、監督職員の**承諾**を得たうえで適切に処理しなければならない。

##### 第2節 砂利道路盤工

###### 1-2-1 敷均し

1. 受注者は、路盤の施工に先立ち、路床面または下層路盤面の浮石、その他有害物を除去しなければならない。

2. 受注者は、路盤の施工において、路床面または下層路盤面に異常を発見したときは、**設計図書**に関して監督職員と**協議**しなければならない。
3. 受注者は、粒状路盤の敷均しにあたり、**設計図書**に示されていない場合には、1層の仕上り厚さで20cmを超えないように均一に敷均さなければならない。
4. 上層路盤厚の**確認**は、施工と並行して、小口面で行うものとする。

#### 1-2-2 締固め

1. 路盤の締固めは、路盤構造に基づき施工するものとし、**設計図書**に定めるものの他、次の各号によるものとする。
  - (1) 路盤工の締固めは、適度な含水量の状態で作業をするように注意し、含水量の過大なときには作業を行ってはならない。
  - (2) 締固め機械は、その通過軌跡を十分重ね合わせるものとする。
  - (3) ブルドーザ締固めが不可能な箇所については、振動ローラ等を用いて、適切に締固めなければならない。
  - (4) 締固め中、路盤に軟弱な部分が発見したときは、ただちに監督職員に**報告**して、その**指示**によらなければならない。
  - (5) 仕上げは、**設計図書**に示された縦横断の形状に仕上げ、仕上げ面に浮石や結合材の過不足のため安定しない箇所があってはならない。

#### 1-2-3 路盤排水工

受注者は、路盤排水工の施工にあたっては、雨水等を安全に路肩外に排水できるよう施工しなければならない。施工位置等で災害を誘発する恐れがある場合は、監督職員と**協議**しなければならない。

### 第3節 コンクリート路面工

#### 1-3-1 一般事項

1. 受注者は、コンクリート路面工の施工に先立ち、路床面の浮石、その他有害物を除去しなければならない。
2. 受注者は、コンクリート路面工の施工において、路床面に異常を発見したときは、**設計図書**に関して監督職員と**協議**しなければならない。
3. 路床を構築する場合は、路床を乱さないよう注意して、所定の高さとなるように仕上げなければならない。

#### 1-3-2 基礎工

1. 締固め機械は、その通過軌跡を十分重ね合わせるものとする。
2. ブルドーザ締固めが不可能な箇所については、振動ローラ等を用いて、適切に締固めなければならない。

### 1-3-3 鉄網の敷設

1. 鉄網の位置は、**設計図書**に示されていない場合には、コンクリートの厚さの1/2の位置とする。
2. 受注者は、鉄網を締固めるときに、たわませたり移動させたりしてはならない。
3. 鉄網は、重ね継手とし、20cm以上重ね合わせるものとする。特に曲線部については、外側部の鉄網が不足しないよう留意しなければならない。
4. 継手は、直径0.8mm以上のなまし鉄線で結束しなければならない。
5. コンクリートを上下層に分けて施工する場合は、下層コンクリートを敷均した後、上層のコンクリートを打つまでの時間を30分以内としなければならない。
6. スペースを用いて鉄網を布設する場合、本体コンクリートと同等以上の品質を有するコンクリート製またはモルタル製のスペースを用いて、打ち込み中に動かないようにしなければならない。

### 1-3-4 スリップバー

スリップバーは、**設計図書**に定められた規格構造によるものとするが、定めのない場合においては、丸棒D-16を標準とし、片側の鉄筋周面及び小口面にビニール等をしっかり巻きつけ、可動できるようにするものとする。

### 1-3-5 収縮目地

1. 収縮目地はダミー目地とし、路面に対して鉛直に施工しなければならない。
2. 構造物がある場合は、コンクリート版と当該構造物の間に目地を施工するものとする。
3. 目地材について**設計図書**に示されていない場合には、10mに1カ所設けるものとする。

### 1-3-6 膨張目地

膨張目地は全切りとし、一日の打設終了後に設けるものとする。

### 1-3-7 養生

1. 表面仕上げの終わったコンクリートは、所定の強度になるまで、日光の直射、風雨、乾燥、気温、荷重、衝撃等の有害な影響を受けないよう養生しなければならない。
2. 表面仕上げ終了直後から、コンクリートの表面を荒らさないで養生作業ができる程度にコンクリートが硬化するまで、表面が乾燥しないように養生を行わなければならない。
3. 引き続きコンクリート表面が害を受けない程度に硬化するまで、スポンジ、麻布、むしろ等でコンクリート表面を覆って、湿潤状態になるよう養生

生するものとする。

4. 交通解放の時期は、監督職員の**承諾**を得なければならない。

#### 1-3-8 表面仕上げ

1. 表面は、荒仕上げ、平坦仕上げ、粗面仕上げの順で施工しなければならない。
2. 粗面仕上げは、タインブラシ等を用いて摩擦抵抗を増すように仕上げなければならない。

### 第4節 排水施設工

#### 1-4-1 水路工

水路工は、第2編 2-1-1 コンクリート二次製品及び鋼製水路工の規定による。

#### 1-4-2 暗渠基礎工

1. 管渠基礎部分を誤って過掘りしてしまった場合には、その処理方法について監督職員の**承諾**を得なければならない。
2. 基礎コンクリートの施工にあたっては、コンクリートと管の下面及びソケットの周囲に空隙が生じないようにしなければならない。

#### 1-4-3 横断溝

横断溝は、共通仕様書第3編第1章第7節 1-7-8 側溝工を準用するほか、次の各号によらなければならない。

- (1) 横断溝の上面は、路面勾配に合わせて布設しなければならない。
- (2) 横断溝に布設する保護工は、共通仕様書第3編第2章舗装工を準用するものとする。

#### 1-4-4 コルゲートパイプ等

盛土中央部が盛土端部に比べて圧密沈下が大きくなる箇所は、盛土中央部を上げ越しして床拵えしなければならない。

#### 1-4-5 集水枳工

集水枳の設計寸法は枳中心寸法とし、上面の構造は路面勾配に合わせて施工するものとする。

#### 1-4-6 呑口工及び吐口工

1. 呑口工及び吐口工は、根入れ各部の前面を十分に埋戻し、締固めなければならない。これにより難しい場合は、監督職員と**協議**しなければならない。
2. 排水施設の基礎となる背面の埋戻しは、十分に締固めなければならない。

## 第2章 コンクリート橋梁上部工

### 第1節 床版橋

#### 2-1-1 一般事項

1. **設計図書**に示されていない鉄筋の継手は、設けてはならない。
2. 橋面舗装をセメントコンクリート舗装とする場合は、床版コンクリートと一体の構造となるように両者を同時に打設しなければならない。
3. コンクリートを打ち終わったらすぐに、直射日光、風、寒気、雨等を防ぐため、シートなどで覆い養生するものとする。
4. 引き続きコンクリート表面が害を受けない程度に硬化するまで、スポンジ、麻布、むしろ等でコンクリート表面を覆って、普通ポルトランドセメントを用いる場合は、打ち込み後少なくとも5日間、早強ポルトランドセメントを用いる場合は3日間、湿潤養生を続けなければならない。
5. 気温が低い時期に床版コンクリートを打設する場合は、コンクリートの圧縮強度が $15\text{N}/\text{mm}^2$ に達するまでは保温設備を用いて養生しなければならない。
6. 勾配橋のコンクリート打設については、低いほうから高いほうに向かって施工しなければならない。
7. 排水管は、舗装面より5mm程度低く設置しなければならない。
8. 可動支承部と固定支承部を取り違えないよう施工しなければならない。

様式 1

# 間伐材資材産地証明書

平成 年 月 日

\_\_\_\_\_ 殿

住所 :

名称 :

工事名 : \_\_\_\_\_

施工場所 : \_\_\_\_\_

本工事に納入した資材について、下記のとおり証明いたします。

記

品名	規格	数量	単位	木材生産地域	備考

## 間 伐 材 資 材 産 地 証 明 書

平成 年 月 日

(受注者あて) \_\_\_\_\_ 殿

住所 :  
名称 : (納入業者が証明)

工 事 名 : \_\_\_\_\_

施 工 場 所 : \_\_\_\_\_

本工事に納入した資材について、下記のとおり証明いたします。

### 記

品 名	規 格	数量	単位	木材生産地域	備 考
木製簡易土留工	ワンタッチウッデ <sup>®</sup> 柵 H=50	100	基	村山地域	
木製簡易土留工	ワンタッチウッデ <sup>®</sup> 柵 H=80	50	基	村山地域	
木製護岸工	ウォーターブロック 基礎タイプ <sup>®</sup>	30	基	村山地域	
木製護岸工	ウォーターブロック 標準タイプ <sup>®</sup>	30	基	村山地域	
木工沈床工	リバーマット(ユニットタイプ <sup>®</sup> ) 方格材 径 10cm L=2.0m	60	本	置賜地域	
木工沈床工	リバーマット(ユニットタイプ <sup>®</sup> ) 主柱 径 55mm L=0.9m	20	本	置賜地域	
木工沈床工	リバーマット(ユニットタイプ <sup>®</sup> ) 敷・蓋成 木 径 10cm L=1.8m 6本組	10	槽	置賜地域	
木工沈床工	リバーマット 壁材 H=100cm	120	面	最上地域	
木工沈床工	リバーマット 主柱 H=100cm	160	本	最上地域	
木工沈床工	リバーマット 敷・蓋成木 L=1.8m 8本組	40	槽	最上地域	
丸太	スギ 末口6~11cm L=1.5m	200	本	庄内地域	
丸太	スギ 末口6~11cm L=1.8m	100	本	庄内地域	
杭丸太	スギ 末口6~11cm L=2.1m	50	本	庄内地域	

※木材生産地域は村山、置賜、最上、庄内の4地域で区分する。

コンクリートポンプ施工計画書

工事名		工作物		
圧送業者	名称	配車予定ポンプ車		
	代表者名	メーカー		
	所在地	型式		
	ポンプ保有台数	最大圧送距離	水平 m	
	所属協会名		垂直 m	
配車予定ポンプの性能仕様		配管		
最大輸送量	m <sup>3</sup> /h	区分	径	
標準輸送量	m <sup>3</sup> /h	水平部分	実延長	
輸送量コントロール	可・不可	垂直部分	水平換算距離	
配管途中の絞り管	必要・不要	曲り管	R = m 箇	
輸送可能スランブ	cm ~ cm	〃	R = m 箇	
異物混入防止装置	あり・なし	絞り管		
コンクリートかく拌装置	あり・なし	フレキシブルホース		
逆転送装置	あり・なし	合計		
ポンプ・吐出口連絡装置	あり・なし			
レディーミクストコンクリート	工場名	粗骨材最大寸法		
	所在地	設計基準強度		
	コンクリート輸送時間	最大分	スランブ	mm 圧縮、曲げ kg/m <sup>2</sup> cm
		標準分		
	生コン車配車計画	m <sup>3</sup> 車台	空気量	%
		m <sup>3</sup> 車台	水セメント比	%
m <sup>3</sup> 車台		単位セメント量	kg	
コンクリートの種類		細骨材率	%	
		コンクリート温度の範囲	℃ ~ ℃	
労務計画	生コン車誘導員	人	シ	人
	ポンプオペレーター	人	リ	人
	筒先作業員	人	鍛	人
			バイブレーター	人
付表	1. コンクリートポンプ配管図 2. コンクリート打設計画表 3. 配筋保護計画書			

上記のとおり提出します。

年 月 日

監督職員職氏名 殿

現場代理人氏名 ㊟

工 事 作 業 日 報													
工 事 名													
平成	年	月	日	曜日	天候			その他					
作 業 種 別		作 業 内 容				本 日 の 出 来 形		監 督 職 員 の 注 意 ・ 指 示 事 項					
作業人員及び稼動機械					特記事項、その他								
職種	技術員	世話役	運転手	作業員									計
人員													
機械名													
台数													
					現場代理人 印								

備考：天候は、主要な工事施工時の状況について記載する。